



わたし ^{かいせつしゃ} 私がプラネタリウム解説者になったいきさつ

東京に生まれ、夜空を見上げる機会も少なく育った私^{わたし}が現在、こうしてプラネタリウムの解説員^{かいせついん}をしているのはとても不思議であり、幸運な事だと思います。

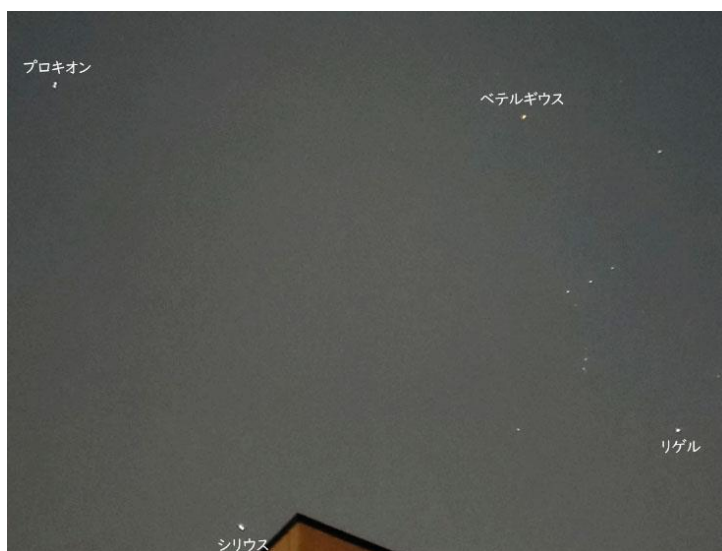
この職^{しよく}に就いたきっかけは、以前勤めていた教育科学館にあります。そこには光学式のプラネタリウムがあり、それを使って投影^{とうえい}するのは、天文^{ちしき}の知識を持つ天文班^{てんもんはん}のメンバーでした。私は3年間、主に実験^{じっけん}を行う科学班のメンバーだったため、ほとんど関^{かかわ}りはなかったものの、プラネタリウムの仕事を間近で見るうちに興味^{きょうみ}が湧いてきました。そして、プラネタリウムで見た都会の夜空を確認^{かくにん}するかのように、実際の夜空を見上げるようになりました。「都会でも星は見える」^{あらた}改めて気付かされました。

その後、試験を受けることで天文班に入るチャンスが得^えられ、念願^{ねんがん}のプラネタリウム解説員になりました。そして、ご縁があり、現在はギャラクシティで解説員をしています。

今^ふ振り返ると、その時々^{みちび}の自分の目指すものに導かれてここまで来られたような気がします。

小学校^{ひじょうきんこうし}の非常勤講師から科学指導員^{しどういん}、そしてプラネタリウム解説員と、勤務先^{きんむさき}で

の様々な出会いと心^{へんか}の変化によって導かれ、現在^{いま}に至っています。そして、これまでの経験^{けいけん}に無駄^{むだ}なことはなく、すべてはこの道に通じていたのだと確信しています。



「冬の三角形」とオリオン座の「つづみ星」：足立区での見え方（足立区からのスマートフォン撮影でも天気が良いとこのくらい星は写る）